

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015 年 6 月

「悪の起源とルシファーの墮落」「再臨に先立つできごと」

「1888 年とラオデキヤへのメッセージ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「悪の起源とルシファーの墮落」

4

聖書の教え

朝のマナ

「再臨に先立つできごと」

7

われらの主よ、きたりませ

現代の真理

「1888年とラオデキヤへのメッセージ」

38

三重のメッセージ - もう一人の御使のメッセージ

力を得るための食事

「麻婆豆腐&茄子」

48

お話コーナー

「祝福された一つ」

50

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2015年5月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 8, 52

実業の原則と方法

聖書には、正当な実業についてたいせつな準備の与えられていない部門はない。勤勉、正直、儉約、節制、潔白という原則は、真の成功の秘訣である。……商人も職人も、どんな実業部門の指導者たちも、……箴言の書にある賢人の言葉ほど適切な格言を他のどこにも見いだすことはできない。

「あなたはそのわざに巧みな人を見るか、そのような人は王の前に立つが、卑しい人々の前には立たない。」(箴言 22:29)

「すべての勤労には利益がある、しかし口先だけの言葉は貧乏をきたらせるだけだ。」(箴言 14:23) ……

「歩きまわって人のよしあしをいう者は秘密をもらす、くちびるを開いて歩く者と交わってはならない。」(箴言 20:19) ……

「知恵ある者とともに歩む者は、知恵を得」る(箴言 13:20)。……

われわれが互いに尽くさなければならない義務の全体の範囲は、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」(マタイ 7:12)とのキリストのみ言葉につくされている。

聖書の中に幾度もくりかえし強調されている警告に注意するならば、どれほど多くの人々が経済上の失敗や破滅をまねかれることであろう。

「急いで富を得ようとする者は罰を免れない。」(箴言 28:20)

「急いで得た富は減る、少しずつたくわえる者はそれを増すことができる。」(箴言 13:11)……

「借りる者は貸す人の奴隷となる。」(箴言 22:7)

「他人のために保証をする者は苦しみをうけ、保証をきらう者は安全である。」(箴言 11:15)……

世間一般の団体においても宗教団体においても、その社会の幸福は、これらの原則に結びついている。生命と財産を保証してくれるのもこれらの原則である。……

「あなたの口のおきては、わたしのためには幾千の金銀貨幣にもまさるのです」(詩篇 119:72)という詩篇記者の言葉は、宗教的な見地からでなくても真実なものを述べている。……

しかしこれらの特質の価値をみとめ、その根源が聖書にあることを知っている人でも、それらがどういう原則に基づいているかをわかっている人は少ない。

実業における正直と真の成功の根本は、神の所有権を認めることにある。……われわれが神のみこころに従って働いている限り、その結果については、神ご自身が責任を持たれるのである。「神の同労者」(コリント第一 3:9)として、われわれのなすべき分は、神のさしずけに忠実に従うことである。(教育 149-152)

5 章 悪の起源とルシファーの墮落

「神は愛である」。このお方の性質、律法、統治、人類の取り扱い、そしてこのお方の表れの一つ一つは、その愛の表現です(ヨハネ第一 4:16)。そして、神の愛はそこにご品性の他の資質に伴っています。I 章をご参照ください。ではどうして神は悪が生じるのを許されたのでしょうか。

道徳的な良心を持つすべての知的存在者は、真理、義そして愛の偉大な諸原則に対する従順もしくは不純純を自由に選ぶことができるように創造されました。ルシファー(「光を担う者」の意)は、最も高められたセラビムの一人でしたが、自分の選択の自由を濫用しました(申命記 30:19; ガラテヤ 6:7, 8)。これが天での大反逆の始まります。ルシファーはサタン(シャタン(Shatan)というヘブル語で、「敵」の意)となりました。彼は自己称揚、欺瞞、偽り、そして殺人を通して、神の律法を打ち捨てました(エゼキエル 28: 13-15, 17; イザヤ 14:12-14; 黙示録 12:7, 8; ヨハネ 8:44 (ヨハネ第一 3:15 参照))。

サタンとその使が天から追放されたとき、彼らはこの地上に自分たちの住まいを見出し、そこで彼らは反逆の働きを続け、わたしたちの最初の父祖は彼に屈したのです(黙示録 12: 9, 12, 13; ヨブ 1:6, 7; ペテロ第一 5:8; ペテロ第二 2:4; ユダ 6 (マタイ 8:29 参照) ; 創世記 3:1-15 (ローマ 5:12 参照))。

サタンは偽って、この地上は、その中にあるものと共に、自分のものだと言いました。彼は権利によってではなく、略奪によって「この世の君」また「神」となりました(ルカ 4:5, 6; コリント第二 4:4; ヨハネ 12:31; ヨハネ第一 5:19)。

サタンに対するキリストの最終的な勝利はゲッセマネの園と十字架上で得られました(ヨハネ 14:30; 16:11; ヘブル 2:14, 15)。キリストの勝利の結果、わたしたちもまた勝利することができます(コリント第一 15:57; ヤコブ 4:7, 8; 黙示録 12:11)。

千年紀の間、サタンはこの地上に状況という鎖によってつながれることになります。そして千年紀の終わりに、彼とその従者たちは短い間だけ解き放たれ、それから最終的に滅ぼされて、根も葉も残らないのです(黙示録 20:1-3, 7-10;

マラキ 4:1, 3; イザヤ 14:15-20; エゼキエル 28:16, 18, 19)。

どこで、どのように罪は生じたか

「われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、「長き世々にわたって、かくされていた奥義」のあらわれであった(ローマ 16:25)。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。世に対する神の愛はまことに大きかったので、神は、『み子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得る』ために、そのひとり子を与えることを約束された(ヨハネ 3:16)。」(各時代の希望上巻 5)

「罪は、キリストの次に位し、最大の栄誉を神から受け、天の住民の中で最高の力と栄光を与えられていた者から始まった。『黎明の子』ルシファーは、きよく汚れのない守護のケルブの第一の者であった。彼は、大いなる創造主のみ前に立っていた。そして、永遠の神をめぐり照らすつぎない栄光の輝きが、彼の上に宿っていた。」(人類のあけぼの上巻 4)

サタンは、不信心者の思いの中に次の質問を入れ込みました。もし、はじめの父祖が誘惑に陥ることを、神がご存知であったとすれば、なぜ彼らを創造されたのであろうか。あるいは、なぜこのお方は、その代わりに、誘惑されても倒れることのない別の男、別の女を創造されなかったのであろうか。しかし、彼は同じ質問を自分自身にはしないのです。なぜなら、彼こそ罪の創始者であり、アダムとエバが神のご命令を犯すように誘惑した者であったからです。罪の起源は、わたしたちにとって神秘です(申命記 29:29)。

「神に対して同じ反抗的不満をくり返している人々が、今日も大ぜいいる。彼らは、人間から選択の自由を奪うことは、知的存在としての権利を取り去って、人間を単なる機械人形にしてしまうのに等しいことを理解していない。意志を強制することは、神のみ旨でない。人間は自由意志を持った道徳的存在として創造された。他の諸世界の住民たちと同じく、人間は、従順か否かの試みを受けなければならない。だが、人間は必然的に悪に負ける立場に置かれているのでは

ない。人間が抵抗できないような誘惑や試練は、一つとして襲ってくるのが許されていない。神が十分な備えをしてくださったから、人間はサタンとの戦いにおいて決して敗北する必要はなかったのである。」(人類のあけぼの上巻 390)

「愛の律法は神の統治の基礎であるから、すべての被造物の幸福は、この偉大な義の原則に完全に一致することにあつた。神は、すべての被造物の愛の奉仕、すなわち、神のご品性に対する賢明な理解から生ずる尊敬をお望みになる。神は、強制的な忠誠をお喜びにならないで、だれでも神に自発的な奉仕をささげるように、すべてのものに意志の自由を与えておられる。

しかし、この自由を悪用した者があつた。キリストに次いで最も神から栄誉を受け、天の住民の中で最高の権威と栄光を与えられていた者から罪が始まつた。」(各時代の斗争闘下巻 229)

「この戦いが地上で再開されたときも、サタンは、一見優勢であつた。人間は罪を犯したために彼に捕えられ、人間の王国もまた、大反逆者の手中に陥ってしまった。こうして、サタンが独立王国を建て、神とそのみ子の権威に反抗する道が開かれたように思われた。」(人類のあけぼの上巻 389)

「罪が科学となつたとき、天に対して人の敵意がもっとも凶暴になつたとき、反逆が人間の心の中に深く根ざしたとき、悪徳が宗教の一部として聖別されたとき、人間を非常な悪の状態に導いたために神が世界を滅ぼされるだろうと考えてサタンが有頂天になつたとき、イエスはこの世につかわされた。なんという恵みであろう! 世を罪に定めるためではなく、救うためにつかわされたのである。墮落しなかつた諸世界は、エホバが立ち上がられて地の住民を一掃されるのを見ようと非常な関心をもって見守っていた。そしてサタンは、もし神がそうなさるならば、自分の計画を完成し、自ら墮落しなかつた諸世界との同盟を得るのだと自慢していた。彼は神に責任を負わせ、自分の反逆を天上の諸世界に広めるための論拠を用意していた。しかし、この危機の時に、世を滅ぼす代わりに、神はそれを救うためにご自分のひとり子を送られたのであつた。」(サイン・オブ・タイムズ 1894 年 2 月 5 日)

「サタンが反逆の最初に存在を消滅されなかつたのはなぜであろうか。それは悪に対する神の処置を通して、宇宙が神の正義を知り、悪が永遠の宣告をうけるためであつた。」(教育 359)

われらの主よ、きたりませ

Maranatha



6月「再臨に先立つできごと」

来るべきできごとは、はっきりと示されている

「主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス 3:7)

恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとかがっているので、彼らは悩みの時に備えができていない。(各時代の犬争闘下巻 359, 360)

世界の歴史が終末に近づくに従って、最後の時代に関する預言は、特に研究すべきである。新約聖書の最後の書には、理解しなければならない真理が満ちている。(キリストの実物教訓 112)

黙示録の中で順番にしたがって与えられている厳粛なメッセージが、神の民の心の思いの中で第一位を占めているべきである。……

貴重な時間は急速に過ぎ去っている。そして多くの人は、神が墮落した世界に送られたメッセージを宣言するために用いられるべき時間を奪われる危険がある。サタンは、永遠の現実に関わる真理の研究に従事すべき思いがそらされるのを見て喜ぶ。

キリストの証、すなわち最も厳粛な証が世に伝えられるべきである。黙示録全体を通じて、そこにはもっとも尊く、気高い約束があり、またもっとも恐るべく、厳粛な重要性を持つ警告もある。真理の知識を持っていると公言する者は、キリストがヨハネに与えられた証を読まないのであろうか。この中には当て推量や科学的欺瞞はないのである。ここにはわたしたちの現在と未来の幸福に関する真理がある。麦に比べれば、もみがらなど何であろうか。(教会への証 8 巻 302)

聖書を熱心に研究し、真理の愛を受けた者だけが、世をとりこにする強力な惑わしから守られる。聖書の証によって、これらの者は欺瞞者サタンの変装を見破る。すべての人に試みの時がやってくる。誘惑のふるいによって、ほんもののキリスト者が明らかにされる。神の民は、自分の感覚的証拠に屈しないほど、今神のみ言葉に固く立っているだろうか。こうした危機においても、彼らは聖書に、しかも聖書だけにすがりつくだろうか。(各時代の犬争闘下巻 400)

将来起こることへの準備

「すべて主の命令を行うこの地のへりくだる（柔和な）者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜（柔和）を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの目に、あるいは隠されることがあろう。」（ゼパニヤ 2:3）

罪はほとんど限界までに達している。混乱が世に満ち、非常な恐怖がまもなく人類におそいかかってくる。終わりは非常に近い。神の民は、圧倒的な突然の出来事として世界に臨もうとしている事態に対して、準備しなければならない。（家庭の教育 605, 606）

「かつてなかったほどの悩みの時」が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである。現実の困難というもの、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、われわれの前にある危機の場合は、そうではない。どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。この試練の時に、人間は、みな、自分で神の前に立たなければならない。「主なる神は言われる、わたしは生きている、たといノア、ダニエル、ヨブがそこにいても、彼らはそのむすこ娘を救うことができない。ただその義によって自分の命を救いうるのみである」（エゼキエル書 14:20）。（各時代の大争闘下巻 396, 397）

真理と誤謬の最後の争闘は、長い間続いてきた神の律法に関する論争の最後の戦いにほかならない。われわれは今や、この戦い、すなわち、人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦いに入っているのである。（同上 344）

わたしたちは自分たちが生きているこの時代に注意を向ける偉大な道しるべを研究すべきである。……わたしたちは今、大いなる神の備えの日の苦闘にそなえて準備ができるように、この上なく熱心に祈るべきである。（わたしたちの高い召し 340）

神の指導と導きを得るため、自分たちを神の支配の下に置く者は、神が起こるように定められたできごとの一連の足跡をとらえる。彼らは世の生命のためにご自分の命を与えてくださったお方の御霊を吹き込まれて、もはや無気力に、自分にはできないことを指し示しながら、立ち尽くしているようなことはなくなる。彼らは天の武具を身にまとい、戦いに出て行く。彼らは神のために喜んで大胆にことをなし、このお方の神の無限の力が自分たちの必要を満たしてくださることを知っているのである。（教会への証 7 巻 14）

最後の戦いのためのサタンの基盤

「彼は、いと高き者に敵して言葉を出し、かつ、いと高き者の聖徒を悩ます。彼はまた時と律法とを変えようと望む。聖徒はひと時と、ふた時と、半時の間、彼の手にわたされる。」(ダニエル 7:25)

福音時代を通じて人類の大敵は、第四条の安息日の戒めを特別な攻撃的にしてきた。サタンは言っている。「わたしは神とは反対の目的をもって働く。わたしは神の記念である七日目の安息日を破棄するように、わたしの手下たちに権限を与える。こうしてわたしは、神によって聖別され、祝福された日が変更されたことを世界に示そう。その日が人々の心に覚えられないことはない。わたしはその記憶を消し去る。そのかわりに神に認定を受けていない日、神と神の民との間のしるしとなることができない日を設けることにしよう。わたしはその日を受け入れる人々を導いて、神が第七日にお与えになった神聖さをその日に与えるようにさせよう。

わたしはわたしの代理人によって、自らを高めよう。第一日が尊ばれ、プロテスタント教会は、この偽の安息日を本物として受け入れるであろう。神が制定された安息日に対する不従順によって、わたしは神の律法を侮辱する。『これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしである』という言葉を、わたしの安息日の側で活用しよう。

こうして世界はわたしのものになる。わたしは地上の支配者となり、この世の君となる。わたしは自分の権力下にある者の心を支配して、神の安息日を特別に侮辱するようにしむける。しるしであるか。わたしは第七日を遵守することを、地上の権力に対する不忠実のしるしとする。人間の法律が非常な厳しさで施行されるので、男女は第七日の安息日を守ろうとしなくなる。食糧や衣類の欠乏を恐れて、彼らは世といっしょになって神の律法に違反する。地は全くわたしの支配するところとなる。」(国と指導者上巻 152, 153)

安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後の試練が人々を襲うとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかになる。(各時代の斗争闘下巻 375)

安息日遵守者に対する悪魔の戦略

「定めをもって危害をたくらむ悪しき支配者はあなたと親しむことができますでしょうか。彼らは相結んで正しい人の魂を責め、罪のない者に死を宣告します。」(詩篇 94:20,21)

神の民が最後の危難に近づく時、サタンは彼らの信仰をくつがえすのに最も成功する方法を悪天使たちと熱心に相談する。……

大欺瞞者は言う、「……安息日は魂の運命を決定する大きな論争点である。われわれは自分たちの作り出した安息日を高めなければならない。われわれは世俗の者と教会員の両方がこの安息日を受け入れるようにさせてきた。今教会は、世の支持のもとに世と一つになるよう導かれなければならない。われわれは彼らの目を真理に対して盲目にするために、しるしと不思議とを行って、彼らが理性と神への畏れを捨てて、習慣と言い伝えに従うように仕向けなければならない。

わたしは、人気のある牧師たちに働きかけて、聴衆の注意を神の律法からそらせるようにさせよう。……

しかし、われわれの主な関心事は安息日遵守者という宗派を沈黙させることである。われわれは彼らに対する民衆の憤りを起こさなければならない。偉い人物や世知にたけた人物をわれわれの側に参加させ、当局の人々がわれわれの目的を遂行するように仕向けよう。そうすればわたしが作った安息日は、最も厳しく苛酷な法律で施行されるであろう。この法律を無視する者は都市や村から追い出され、飢えと欠乏に苦しみを受ける。われわれがひとたび力を持つなら、神への忠誠からそれない者に対してわれわれが何をすることができるかを見せよう。……そこで今、われわれの威力あるこの右腕で、プロテスタント教会と世を一致させ、ついには、われわれの権威に従わない者をすべて根絶する法律を持つのだ。われわれの安息日を犯す者に対する刑罰が死刑に定められるとき、今は律法遵守者として位置づけられている多くの者がわれわれの側に来る。

しかし、これらの過激な手段を起こす前に、われわれは……真の安息日を尊ぶ者たちをわなにかけなければならない。世俗や肉欲、また誇りによって多くの者をキリストから引き離すことができる。彼らは自分たちが真理を信じているので安全であると考えているかもしれないが、食欲の放縦や低い情欲は判断を狂わせ、識別力をなくすので、彼らの墮落の原因となるのである。」(牧師への証 472, 473)

獣への像が立てられる

「[彼は] さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。」(黙示録 13:14)

獣の像は猶予の期間が閉じる前に作られる。なぜなら、この像は神の民にとって大きなテストとなり、これによって彼らの永遠の運命が決定されるからである。……

黙示録 13 章でこの主題は、はっきりと示されている。「わたしはまた、ほかの獣が地から上がって来るのを見た。それは小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。そして先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。」それから奇跡を働く力があらわされた。「さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことができるようにし、また、その獣の像を拝まない者はみな殺させた。また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にもすべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないようにした。この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。」

これは神の民が印される前に受けなければならないテストである。神の律法に従い、偽りの安息日を受け入れるのを拒むことによって、神への忠誠をはっきりと示す者はみな、主なるエホバの神の旗のもとに集まり、生ける神の印を受ける。天来の真理を捨てて、日曜安息日を受け入れる者は、獣の刻印を受ける……。 (手紙 1890 年)

ヨハネが教会と地上の権力との最後の大きな戦いを示されている間、彼はまた忠誠を尽くした者たちの最後の勝利と救出を見ることを許された。……戦いの煙と騒音の向こうをながめて、彼はシオンの山に小羊と共にいる群れを見たが、彼らは獣の刻印ではなく、「その額に父の名が書かれ」ていた。(教会への証 5 卷 572)

背教が道を備える

「だれがどんな事をしても、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。」(テサロニケ第二 2:3)

初代教会が福音の単純さを離れ、異教の儀式と習慣を受け入れることによって墮落したとき、神の御霊と力を失った。そして、人々の良心を支配するために、世俗の権力の援助を求めた。その結果が法王権であって、それは、国家の権力を支配し、それを教会自身の目的、特に「異端」の処罰のために用いた教会であった。……

教会が世俗の権力を握った場合はいつでも、それを自分の教義と意見を異にする者を罰するために用いてきた。世俗の権力と提携することによってローマの範に従ったプロテスタント諸教会も、良心の自由を束縛しようとする同様の欲望を表わした。英国の国教会が、長年にわたって反対者を迫害したことは、そのよい例である。十六世紀と十七世紀にわたって、幾千という非国教徒の牧師たちが、教会を去らなければならなかった。そして、牧師も信徒も、多くの者が罰金、投獄、拷問、殉教の憂き目にあったのである。

初代教会が政府の支持を求めるようになったのは、背教のためであった。そして、これが、法王権―獣一の発展する道を開いた。「まず背教のことが起り、不法の者……が現れる」とパウロは言った(テサロニケ第二 2:3)。そのように、教会内の背教が、獣の像を造る道を開くのである。(各時代の争闘下巻 162, 163)

サタンはあらゆる偽りの力と「あらゆる不義の惑わし」をもって活動している(テサロニケ第二 2:10)。暗黒、数々の誤った教え、異端、終末時代の惑わしなどの急速な増加によって、サタンの活動を知ることができる。サタンは、単に世俗を捕らえるだけでなく、彼の欺瞞はわれわれの主イエス・キリストの教会と称するところにまで及んでいる。大背教は真夜中の暗やみのようなのである。神の民にとって、それは試練の夜、涙の夜、真理のための迫害の夜である。しかし、その暗い夜から神の光が輝き出るのである。(国と指導者下巻 317, 318)

欺瞞における心霊術の役割

「愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。」(ヨハネ第一 4:1)

多くの者は、心霊術は単なる人間のごまかしであるという信念によってわなにかかる。というのは、超自然的と思わないではいられないような現象に直面した場合、彼らは欺かれ、それを神の偉大な力として承認するようになってしまうからである。(各時代の斗争闘下巻 306)

心霊術の教えが教会に受け入れられるに従って、肉の心の抑制が取り除かれ、信仰の表明は、最も卑しい不正を隠すためのおおいとなるであろう。霊の現われを信じることは、惑わす霊と悪霊の教えに対して扉を開くことになり、こうして、悪天使の影響が教会内に及んでくる。(同上 372)

人気のある牧会は心霊術に対してうまく抵抗できない。彼らはこの有害な影響力から自分の群れを守る手立てを何も持っていないのである。心霊術の悲しむべき結果は大部分現代の牧師のせいである。なぜなら彼らは真理を踏みつけ、その代わりに作り話を取り入れたからである。(教会への証 1 巻 344)

サタンは世界を惑わす最後の努力をなすために、長い間準備してきた。彼の働きの基礎は、エデンにおいてエバに与えた保証―「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」という言葉におかれている(創世記 3:4, 5)。サタンは、心霊術の発展の中に、その惑わしの傑作のための道を少しずつ備えてきた。彼はまだ自分の陰謀を完成してはいない。それは最後の残りの時に達成されるのである。預言者はこう言っている。「また見ると、……かえるような三つの汚れた霊が出て来た。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであつた」(黙示録 16:13,14)。み言葉を信じる信仰によって、神の力に守られている者を除いて、全世界は、この惑わしの隊列の中にまきこまれる。人々は致命的な安心感へと急速に誘い込まれているので、神の怒りが降下して初めて目をさますのである。(各時代の斗争闘下巻 317)

霊たちと日曜休業令の公布

「ただ律法とあかしにと求めよ。もし彼らがこの言葉によって語らないならば、それは彼らに光がないからである。」(イザヤ 8:20 英語訳)

心霊術を通して現わされる奇跡の力は、人間に従うよりは神に従うことを選ぶ人たちに不利な影響を与える。いろいろな霊からの伝達は、神は日曜日を拒絶する者たちにそのまちがいを悟らせるために自分たちを送られたのだと宣言し、国家の法律は神の律法と同様に遵守しなければならないと断言する。霊たちはまた、世の中が非常に悪くなったことを嘆き、道徳的に墮落している状態は日曜日の冒涇に原因があるという宗教家たちの証言を支持する。彼らのあかしを信じようとしなすすべての者に対して、ますます激しい怒りが引き起こされる。(各時代の大争闘下巻 353, 356)

心霊術の教えに反対する者は、ただ人間だけではなくサタンと悪天使たちを攻撃しているのである。彼らは、もろもろの支配と、権威と、天上にいる悪の霊との戦いに入ったのである。サタンは、天の使の力によって撃退されないかぎり、一步も退却しようとはしない。神の民は、救い主がなさったように、「……と書いてある」という言葉をもってサタンに対抗することができるべきである。サタンは今もキリストの時と同様に聖書を引用できるので、自分の惑わしを支持するために、聖書の教えを悪用するであろう。この危険な時に立とうとする者は、聖書のあかしを自分で理解しなければならない。

多くの者は、愛する肉親や友人の姿をしてもっとも危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面するであろう。これらの来訪者たちは、われわれの最も感じやすい同情に訴え、自分の主張を支持するために奇跡を行なう。われわれは、死んだ者は何事をも知らない、このように現われる者は悪鬼の霊である、という聖書の真理によって彼らに抵抗する用意がなければならない。(同上 314, 315)

神の王国の建設に反対するために、人間の姿をしたサタンの代理人たちは、この最後の争闘で役割を果たす。そして人間の姿をした天の御使たちも活動の場にいる。二つの相反するグループがこの地上の歴史における最後の大きな出来事が終わるまで存在し続ける。(レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1909 年 8 月 5 日)

偽りのリバイバル

「その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と」(テサロニケ第二 2:8,9)

パウロは、テサロニケ人への第二の手紙の中で、サタンが心霊術によって、特別に活動することを指摘し、それが、キリスト再臨の直前に起こると言っている。彼は、キリストの再臨のことを述べ、サタンが、「あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と」によって働いたあとで起こると言っている(テサロニケ第二 2:9)。(人類のあけぼの下巻 371)

地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする。……

しかし、だれも欺かれる必要はない。神の言葉に照らしてみるならば、これらの運動の本質を見定めることは、むずかしいことではない。人々が聖書の証言をおろそかにし、克己と世俗の放棄とを要求する明快で人の心を試す真理から顔をそむけるならば、神の祝福を受けることができないのは確かである。そして、「その実によって彼らを見わけるであろう」という、キリストご自身がお与えになった規準によって、これらの運動は神の霊の働きではないことが明らかなのである(マタイ 7:16)。(各時代の争闘下巻 190, 191)

若い男女が高められ、自分たちが驚くほど恵まれており、何か偉大なことをするように召されていると考える。一風変わった命令がなされて、多くの者が改心するが、彼らは神の署名を持っているわけではない。ふしだらさや放縦が言行に入り込み、多くの者は信仰の破船をきたす。(レクテッド・メッセージ 2 巻 59)

獣の像はどのように発展するのか

「そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。」(黙示録 13:12)

米国が獣の像を造るためには、宗教的権力が政府を支配し、教会が、教会自身の目的を遂行するために、国家の権力を用いるようにならなければならない。

.....

「獣の像」は、プロテスタント諸教会が自分たちの教義を強制するために公権力の助けを求めるときに起きてくるところの、そうした背教のプロテスタント教会を表わしている。.....

日曜日遵守が法律によって強いられ、真の安息日を守るべきことが世界に明らかにされるその時に、神の戒めを破って、単にローマの権威によるものにすぎないところの戒めに従う者は、それによって、神よりも法王教をあがめるのである。そのような人は、ローマに敬意を払い、ローマが定めた制度を強制する権力に敬意を払っている。彼は、獣とその像を拝んでいる。こうして、神がご自分の権威のしるしであると宣言された制度を拒んで、その代わりに、ローマがその至上権のしるしとして選んだものを尊重するときに、人々は、それによって、ローマに対する忠誠のしるし、すなわち「獣の刻印」を受けるのである。こうして、この問題が人々の前に明らかに示されて、神の戒めと人間の戒めのどちらかを選ばねばならなくなったとき、それでも神の戒めを犯し続ける人々が、「獣の刻印」を受けるのである。.....

この争いの結果、全キリスト教世界は二種類の人々に分けられる。すなわち、神の戒めを守り、イエスの信仰を持つ者と、獣とその像とを拝み、その刻印を受ける者である。教会と国家とが力を合わせて、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に」「獣の刻印」を受けるように強制しても(黙示録 13:16)、神の民は、それを受けない。パトモスの預言者は、「このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立って」、「モーセの歌と小羊の歌とを歌って」いるのを見るのである(黙示録 15:2,3)。(各時代の犬争闘下巻 163, 165, 171, 172)

もっと完全に宣布される安息日

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。』」(黙示録 14:6,7)

悩みのときの開始にあたって、われわれが出ていってもっと徹底的に安息日を宣べ伝えたとき、われわれは聖霊に満たされた。(初代文集 93)

「悩みの時の開始」とここに言われているのは、災害が降り始めるときのことではなくて、キリストがまだ聖所におられて、災害がくだり始める直前の短い期間をさしている。救いの働きが終了しつつあるその時、地上には悩みが起り、諸国民は怒り狂うが、第三天使の働きを妨げないように、まだ抑制されている。その時に、「後の雨」、すなわち、主のみ前から慰めの時がきて、第三天使の大きな声に力をそえる。そして、最後の七つの災害がくだるときに、聖徒たちが立つことができるように準備を与える。(同上 173)

〔黙示録 14 章の天使〕はキリストが天の雲に乗って来られる直前に、世に宣べ伝えるべきメッセージを伝える。……この時の少し前に、証の箱の中におさめられている神の律法、踏みじられた律法に人々の注意が向けられるべきである。
……

彼らは神が聖別し、安息日として従うべきであると命じられたその日、第七日目を遵守する代わりに、週の第一日目を守っていることを知る。しかし、彼らは誠実に、神のみ旨を行いたいと願い、安息日に変更された理由を見つけようと聖書を探し始める。この慣わしに対する聖書からの証拠をどこにも見つけることができないので、質問が起こる。わたしたちは人気のない真理を受け入れて、神の戒めに従うべきであろうか。あるいは、世と共にとどまって、人の戒めに従うべきであろうかと。聖書を開いて、彼らは涙を流し、祈りつつ、真理を確信するまで聖句と聖句を比べる。彼らは良心的に、神の戒めを守る者としての立場を取るのである。(教会への証 8 巻 1887 年 5 月 5 日)

くり返されるべき第二天使のメッセージ

「また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者。』」(黙示録 14:8)

黙示録 14 章の第二天使のメッセージは、最初、1844 年の夏、宣べ伝えられた。そして、それは当時の米国の諸教会に直接当てはまるものであった。米国においては、審判の警告が最も広く宣言されたにもかかわらず、大部分の教会はそれを拒否して、急速に墮落してしまった。しかし、第二天使のメッセージは、1844 年に完全な成就を見たのではなかった。その時、教会は、再臨のメッセージの光を拒否したために、道徳的墮落を経験したのであったが、しかしその墮落は、全面的なものではなかった。諸教会は現代に対する特別な真理を拒否しつづけてきたために、ますますひどく墮落してしまった。しかし、「バビロンは倒れた。……その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」と言うまでには、まだなっていない。彼女はまだあらゆる国民に飲ませてはいない。(各時代の争闘下巻 91,92)

神は、まだバビロンの中にご自分の民を持っておられる。そして、神の刑罰が下る前に、これらの忠実な人々を呼び出して、彼らがその罪にあずからず、「その災害に巻き込まれないように」しなければならぬのである。(同上 372)

これは第二天使によって与えられたのと同じメッセージである。バビロンは倒れた。「その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。そのぶどう酒とはなんであろうか。それは偽りの教理である。バビロンは第四条の戒めの安息日の代わりに偽りの安息日を与えた。そして、サタンが初めにエデンの園でエバに語った嘘、すなわち、靈魂不滅をくり返している。バビロンは多くの似た誤りを、「人の戒めを教義として教える」ことによって、いたるところに広めたのである。……

世に対する最後の警告の働きにおいて二つのはっきりとした呼びかけが諸教会に対してなされる。第二天使のメッセージは「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」であり、第三天使のメッセージの大いなる叫びの中では、天から次の声が聞こえる、「わたしの民よ、彼女から離れ去って、その罪に預からないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。彼女の罪は積もり積もって天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト] 7 巻 985)

安息日 対 日曜休業令の公布が共に

「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、……神の激しい怒りのぶどう酒を飲』む。」
(黙示録 14:9,10)

これまで、第三天使のメッセージの真理を伝えた者は、単に人騒がせな者と思われなかったことがよくあった。米国において宗教的不寛容が勢いを増し、教会と国家が結束して、神の戒めを守る者を迫害する、という彼らの予告は、なんの根拠もないばかげたことであると評されてきた。……しかし、日曜日遵守を強制する問題が広く論じられるとき、長い間疑われ信じられなかった事件が近づいてくるのがわかり、第三天使のメッセージは、今までになかったような結果をもたらすことであろう。……

信仰と祈りの人は、聖なる熱意に燃えて出て行き、神から与えられる言葉を宣言せざるをえなくなる。バビロンの罪は暴露される。教会の法令を政権によって強制することの恐るべき結果、心霊術の侵入、法王権のひそかではあるが急速な発展などが、みな暴露される。これらの厳粛な警告によって、人々は動かされる。……人々が、彼らのかつての教師たちのところへ行行って、これらのことは真実であるかと、熱心に尋ねるときに、牧師たちは、作り話を語り、耳ざわりのよいことを予言し、彼らの恐怖と目ざめた良心をしずめようとする。しかし、多くの人々は、単なる人間の権威に満足せずに、はっきりした「主はこう言われる」という言葉を要求するので、一般教会の牧師たちは、昔のパリサイ人のように、自分たちの権威が疑われたことを怒って、そのメッセージはサタンから出たものであると非難し、罪を愛する群衆を煽動して、その宣布者たちをあざけり、迫害するのである。

争闘が新しい分野に及び、ふみにじられた神の律法に人々の心が向けられるとき、サタンは騒ぎ出す。メッセージに伴う力は、それに反抗する人々を怒らせるだけである。牧師たちは、その光が彼らの群れの上に輝かないようにと、ほとんど超人的な力で、それをさえぎろうとする。彼らは、あらゆる手段に訴えて、これらの重大な問題に関する討論を圧迫しようとする。教会は、政権の強大な権力に訴える。そして、この働きにおいて、カトリックとプロテスタントは提携する。
(各時代の犬争闘下巻 375-377)

三天使のメッセージの象徴

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたにたにつかわす。」(マラキ 4:5)

神の日に立ち得る民を準備するには、改革の大いなる働きが〔再臨運動によって〕なし遂げられねばならなかった。神は神の民と称する人々の多くが、永遠のために築いていないのを見られ、あわれみのうちに、彼らに警告のメッセージを与えて、彼らを昏睡から目覚めさせ、主の再臨の準備をさせようとした。

この警告が黙示録 14 章に記されている。ここには天使が宣言するといわれている三重のメッセージが書かれていて、すぐそれに続いて人の子が来られ、「地の穀物」を刈られる。(各時代の大争闘上巻 400)

天使は中空を飛んで、警告のメッセージを宣言し、この地上歴史の終わりの時代に住んでいる人々に直接関連を持つ者として表されている。だれもこの天使の声を聞くわけではない。なぜなら、この天使は、全天と調和して働く神の民をあらわす象徴だからである。(ライフスケッチ 429)

三天使のメッセージは結合して、三重の光を世に与えるべきである。黙示録の中でヨハネは、「わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威をもって、天から降りてくるのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」と言っている。……これは世界に対する最後の警告、三重のメッセージを伝えることをあらわしている。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 985)

黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14:6-12 の三重のメッセージを拒否した結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後のメッセージである。そしてそれは、その働きを成し遂げる。「真理を信じないで不義を喜んでいた」人々は、偽りを信じ、迷わす力に陥るままにされる(テサロニケ第二 2:12)。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、「わたしの民よ。彼女から離れ去」れという招きの声に耳を傾けるのである(黙示録 18:4)。(各時代の大争闘下巻 93)

最後の時の武力による闘い

「万軍の主はこう仰せられる、見よ、国から国へ災が出て行く。大きなあらしが地の果からおこる。」(エレミヤ 25:32)

まもなく悲しむべき困難、すなわち、イエスが来られるまで止むことのない苦難が国々で起こる。諸天においてご自分の御座を整え、ご自分の王国をもって全宇宙を統治されるお方に仕えるために、わたしたちはかつてなかったほど、共に前進する必要がある。神はご自分の民を見捨てたりはなさらない。そしてわたしたちの力は神を捨てないことにある。

神のさばきは地上で行われている。戦争と戦争のうわさ、また洪水や火事による破壊は、困難の時が非常に近く、またこの災難は終わりに至るまで増加していくことをはっきりと示している。わたしたちに無駄にする時間はない。世界は戦争の精神でかき乱されている。ダニエル書 11 章にある預言は、最終的な成就にさしかかっている。(ウエルニア・ミストリー 136)

まもなく諸国間での争いが、今は予想もできないほどの激しきで起こるのである。現代は、今生きているすべての者にとって重大な関心を持つべき時である。支配者や政治家、信任の権威ある地位を占めている人々、あらゆる階級の分別のある男女が、わたしたちの周りで起ころうとしていることに関心を持っている。彼らは国家間に存在する緊張した不安な関係に注目している。彼らは、地のあらゆる要素をとらえている激しさを見守っている。そして、何か大きく決定的なことが起ころうとしており、世界が途方もない危機の瀬戸際にいることに気づくのである。

神は恵み深くも、わたしたちに刑の執行猶予の時を与えてくださっている。天からわたしたちに貸し与えられたあらゆる力を今、無知のゆえに滅びつつある者のための働きに用いるべきである。遅れてはならない。真理が地の暗いところに宣言されなければならない。……偉大な働きがなされるべきであり、現代の真理を知っている者に、この働きが委ねられているのである。(レビュー・アンド・ヘルト 1910 年 11 月 17 日)

この地上の歴史の最後の場面で戦争が猛威をふるう。疫病、災害、ききんが起こる。深い所の大水がその限度を越えて流れる。財産や命は火災や洪水で滅ぼし尽くされるであろう。わたしたちは、キリストがご自分を愛される者たちのために用意に行かれた住居のために準備しているべきである。そこには地上の闘争から離れた安息がある。(同上 1897 年 10 月 19 日)

困難の時はすぐそこに

「この後、わたしは四人の御使が地の四すみに立っているのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて、地にも海にもすべての木にも、吹きつけないようにしていた。」(黙示録 7:1)

四人の力ある天使はまだ地の四方の風を引き止めている。恐るべき破壊が完全に起こるのは許されていない。風……は、諸国を一連の死闘へと導いていくその一方で、天使が四方の風を引き止めて、神の僕らの額に印がおされるまで、サタンの恐るべき力が猛烈な激しさで働くのをとどめている。(レビュー・アンド・ハラルド 1887年6月7日)

時のしるしは、天の裁きが注がれようとしており、主の日が間近であるという証拠を与えている。新聞は将来の激しい争いの兆候で満ちている。大胆な強盗が頻繁に起きている。ストライキは日常茶飯事である。盗みや殺人はあらゆる方面で行われている。悪魔に支配された人間が、男や女や子供たちの命を奪っている。これらのことはすべて、主の来臨が近いことを証している。

抑制している神の御霊は今もうすでに世界から取り去られつつある。ハリケーンや嵐、暴風雨、海陸の惨事が、次から次へと急速に続いて起こっている。わたしたちの周囲に増し加わる、神の御子の来臨が近いことを知らせるしるしは、真の原因以外のせいにされている。……人間の慰めではいやすことのできない悲しみが世界に起こるその時が目の前に来ている。最後の大破壊が世界を襲う直前ですら、人間の偉大さをほめそやす記念碑がこなごなに崩れてちりとなる。偉大な光がありながら、罪を犯し続けてきた人々に、神の当然の報いが降りかかる。耐火性を備えた、贅沢なビルが建てられる。しかし、ソドムが神の報復の炎で滅んだように、これらの自慢の建造物も灰となる。莫大な金額をかけて造った何隻もの船が、荒れ狂う大波に向かって突き進もうとし、大海と格闘しているのを、わたしは見たことがある。その船は金や銀の宝すべてと、乗客という積荷もろとも海の墓場へ沈んだ。……しかし興奮による混乱のただなかでも、あらゆる場所での困惑があっても、世界中で神のためになすべき働きがある。(サインズ・オブ・タイムズ 1901年10月9日)

神の民の責任にされる災害

「地と海に住む者には災いである。悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」(黙示録 12:12 英語訳)

人間が神から遠く離れれば離れるほど、サタンは不従順の子らに影響力を与えることを許される。彼は人々の中に滅びを投げ込む。地上でも海でも惨事が起こる。財産と生命が、火事や、洪水で失われる。サタンは、自分が作った偶像を拝むことを拒否する者にこの災害の責任を負わせようと決心する。彼の代理人たちは、セブンスデー・アドベンチストを災難の原因であると非難する。「この人々は法律を無視する立場を取っている。彼らは日曜日を冒涇している。彼らを日曜日遵守の法律に無理にでも従わせれば、これらの恐ろしい報いは止むであろう」と彼らは言う。(レビュー・アンド・ヘラルド 1901 年 7 月 16 日)

災害、すなわち最もすさまじい、まったく予想もできないほどの災害が襲ってくる。そして、この災害のもたらす破壊は次から次へと続くのである。もし、神がお与えになった警告に留意し、諸教会が悔い改めて、忠誠へと立ち帰るなら、他の町々では、しばらくの間、猶予を与えられる。しかし、欺かれた人々が自分たちが歩んできた同じ道を歩み続けて、神の律法を軽んじ、人々の前に偽りを示し続けるなら、神は彼らが災害に苦しむのを許される。それによって彼らの意識が目覚める可能性があるからである。(伝道 27)

裁きは人々の邪悪さと彼らの受けた真理の光にしたがって下される。もし、彼らが真理を持っていたなら、その光に応じて罰が与えられる。(原稿 1902 年 173)

サタンは諸事件に自分の説明をほどこす。そして、人々を導く指導者たちは、サタンが彼らを支配しているので、地上に満ちている災難は、日曜日を犯すせいだと考える。神の怒りを和らげようと思って、これらの有力な人々は日曜日遵守を強制する法律を作る。彼らはこの誤った休息日をますます高め、偽の安息日である日曜休業令の遵守を強制することによって、自分が神に奉仕していると思うのである。真の安息日を守ることによって神をあがめる者たちは、神に不忠実な者と見なされる。しかし本当は彼らをそのように見なしている者こそ不忠実な者なのである。なぜならエデンに起源を発している安息日を彼らは足で踏みつけているからである。(同上 1899 年 85)

安息日遵守者に必要な知恵

「わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ。」(マタイ 10:16)

人々の習慣が神の律法と衝突しない時には、あなたは彼らに従ってもよい。もし働き人が、そうしないなら、彼らは自分自身の働きを妨げるだけでなく、自分がそのために骨折って働いている人々の道につまずきの石を置くことになり、その人々が真理を受け入れるのを妨げる。伝道者にとって、日曜日には日曜学校を開き、できる限り、素朴な態度で人々に接して、罪人に対するイエスの愛を彼らに語り、聖書の中から彼らに教えるという最上の機会があるのである。

現在の日曜日遵守はテストではない。人々が日曜日に働くことを禁じるだけではなく、人々に安息日に働くことを強制し、日曜日遵守に同意するか、さもなければ彼らの自由と生命を奪おうとする時が来る。しかし、その時はまだ来ていない。なぜなら、真理が証として人々の前にもっと十分に提示されなければならないからである。……

わたしが持っている真理とは、神の僕が聖書の壮大で尊い真理、すなわちキリスト、しかも十字架にかかれたキリストと、このお方の愛と無限の犠牲を説き、キリストが死なれた理由は神の律法が不変であり、変えられないものであって、永遠のものであることを示して、静かに働きに出るべきであるということである。安息日は、はっきりと教えなければならないが、あなたが偶像である日曜日を、どのように取り扱うかは注意を要する。賢い者へは一言で十分である。……

日曜日に働くのを控えることは獣の印を受けることではない。仕事を控えることが働きに利益をもたらすなら、そうするべきである。わたしたちは日曜日に働くために、わたしたちの歩むべき道はずれてはならない。……

安息日の光を見たり、聞いたりする者が、神の聖日を守るために真理に立つとき、困難が起きる。なぜなら、男にも女にも神の律法を無理に犯させようとして、この人々に対する努力がなされるからである。この人々は神の律法を犯すつもりはないのであるから、ここで彼らは堅く立たねばならない。そして、反対と迫害があくまで続くなら、「一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい」というキリストのみ言葉に注意を払いなさい。(ビュー・アソッド・ヘアルド 1911年4月6日)

日曜日に伝道の働き

「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛かな心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」(テモテ第二 4:2)

日曜法令を無視するのは、人々にこの法令を強制している宗教上の熱狂者の迫害精神を強めるだけである。彼らにあなたが法律を破る者であると言わせる機会を与えてはならない。神も人をも恐れない人々を彼らが制限するままにさせておくなら、その強制はまもなく彼らにとって目新しさを失い、日曜日遵守に関して厳しくすることが、自分たちにとって矛盾した不都合なことであることに気づくようになる。聖書を手に持って、あなたままっすぐ伝道の働きを続けなさい。そうすれば敵は自分の働きを自分で打ち負かしていることに気が付く。人が法律の違反とならないように、仕事を控え、同時に、この上なく大切な働きをすることにより、平和を保つ知恵があることをはっきりと示すからといって、人が獣の刻印を受けることはない。

わたしたちが日曜日を伝道の働きに捧げるとき、セブンスデー・アドベンチストに屈辱を加えるのを喜ぶ専横な熱狂者の手から、むちが取り去られるであろう。
.....

日曜日は、主のために多くの分野の働きを成し遂げるために用いることができる。この日に野外集会や天幕集会を催すことができる。個別訪問もできる。文章を書く者もその日を用いることができる。可能な時はいつでも日曜日に宗教上の行事をしなさい。これらの集会を興味深いものとするように熱心に努めなさい。真のリバイバルの讃美を歌い、救い主の愛を力と確信をもって語りなさい。節制と真の宗教経験について話しなさい。あなたはこうにして、どのように働くべきか、どのようにして多くの魂に近づくかを学ぶのである。……

週の第一日目を遵守するという法律は背教したキリスト教徒の創作である。日曜日はローマ法王制の子であって、キリスト教界が神の安息の聖なる日の上に高めている日である。神の民は決してこの日に敬意を表すべきではない。しかし、神がご自分の民に、日曜日に対するあからさまな抵抗を避けるように望んでおられるときにそうすることは、神のみ旨を行っていることにはならないということを彼らがわかればよいのだが。(教会への証 9巻 232, 233, 235)

すばらしい光景がわたしたちの前に開かれつつある。だから、現代、生き生きとした証が神の民であると告白する者の生活の中に現れるべきである。そうすれば、あらゆるところを悪が支配しているこの時代に、自分の意志を捨て、神のみ旨を行おうとする者、すなわち自分の心と生活の中に神の律法が書き付けられている者がいることを世は知ることができる。(両親、教師、生徒への勧告 322)

アメリカで無効にされる神の律法

「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です。」(詩篇 119:126)

特別な意味で、神の律法がわたしたちの国〔米国〕で無効にされる時が近づいている。わが国の支配者たちが法律を制定することにより、日曜休業令を強制し、それによって、神の民に大きな危機がもたらされる。わが国が、立法審議会において、人々の宗教的特権に関して良心を束縛する法律を施行し、日曜日遵守を強制して、第七日目の安息日を守る人々に対する圧迫を加えるとき、神の律法は、あらゆる点において、わが国で無効にされるのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1888年12月18日)

主がご自分の民のために逃れの町として用意された場所、自分自身の良心の命ずるところに従って主を礼拝できる場所、長年の間、全能の神の保護が行き渡っていた場所、キリストの純潔な宗教の保管者とすることにより、神が好意を示してこられた国、その国が、国会議員を通して、プロテスタント主義の原則を捨て、神の律法を不正に改ざんすることにより、ローマカトリックの背教に賛同するとき、その時こそ、不法の者の最後の働きがあらわれる時である。プロテスタント教会は自分たちの影響力と力のすべてをローマ法王制の側に置く。国家の行為として、偽りの安息日を強制することにより、彼らはローマの墮落した宗教に命と活力を与え、カトリックの暴政と良心の圧迫をよみがえらせるのである。その時こそ、真理を擁護するために、大いなる力をもって神が働かれる時となる。

預言者は次のように言っている。「わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りてくるのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで言った、倒れた大いなるバビロンは倒れた。……わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。彼女の罪は積みもり積もって天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」。彼女の罪はいつ天に達するのであろうか。それは神の律法が法律の制定によって、最終的に破られる時である。そして、神の民の窮地は、天と地の支配者であられる神の働かれる好機なのである。サタンの力が下から、さまざまな分野をあおりたてているとき、神は、ご自分の民に光と力をお送りになり、真理のメッセージは全世界に宣言される。(サイン・オブ・タイムズ 1893年6月12日)

都市を離れるようにとのしるし

「預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。」（マタイ 24:15,16）

初期の弟子たちのように、わたしたちが人里離れた寂しい場所に隠れ家を探すのを強いられる時はそれほど先ではない。ローマの軍隊によるエルサレムの包囲は、ユダヤのクリスチャンにとっては逃げるしるしであった。そのように、ローマカトリック教の安息日を強制する法令を出すわが国〔米国〕の僭越な力の行使が、わたしたちに対する警告となる。その時が大都市から去る時であり、それが山間の隔離した場所で奥まった家を求めてさらに小さい町から離れる準備となるのである。（教会への証 5 巻 464,465）

長年の間、わたしたちは都市に自分たちの働きを集中すべきではないという特別な光を与えられてきた。これらの町に満ちている混乱と混雑、労働組合やストライキによってもたらされる状況は、わたしたちの働きに大きな障害となることがわかる。人々はさまざまな取引に従事している人々を、ある組合の束縛下におこうとしている。これは神のご計画ではなく、わたしたちが決して認めるべきではない勢力の計画なのである。神のみ言葉は成就しつつある。よこしまな者は、自分たちを束にまとめて、焼かれる準備をしている。（同上 7 巻 84）

世界の労働組合と商業同盟はわなである。兄弟方よ、それらに関わりを持たず、離れていなさい。彼らと共に何事もしてはならない。これらの組合や同盟のせいで、町々でわたしたちの組織が働きを遂行するのに、まもなく非常に困難になるからである。……都市を出て、田舎へ行くように、わたしたちの民を教育しなさい。田舎で彼らは小さな土地を手に入れて、自分と子供たちのために家を建てることができる。……

まもなく、都市に争いや混乱が起こる。そうなった時に、町々を去ろうとしてもそれができなくなる。（*エレクテッド・メッセージ* 2 巻 142）

わたしたちは神を崇拜しない人々と親密な関係を結ぶよう強制されるような場所に自分を置くべきではない。……日曜日遵守に関する危機がまもなくやってくる。……

日曜日遵守の一団は偽りの主張をすることによって、どんどん力をつけている。そして、このことは主の安息日を守ろうと決心する人々に対する圧迫を意味している。……

もし神の摂理のうちにわたしたちが都市から離れた場所を確保することができるのなら、主はわたしたちがそうすることを望んでおられる。わたしたちの前には悩みの時がある。（田舎の生活 20,21）

終わりの時代の食物と土地

「だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。」(マタイ 6:34)

悩みの時の物質的必要的のために準備することは、聖書に反することであることを、主は繰り返してわたしに示された。もし聖徒たちが、自分のところ、また畑に食糧を貯えていたりしても、もし国に、戦争や飢饉、また疫病が起これば、それは暴徒たちに奪い去られ、他人が畑の作物を刈るようになるのをわたしは見た。それはわたしたちが神にまったく信頼するべき時であり、神はわたしたちを支えてくださる。その時にわたしたちのパンと水は必ず与えられる、わたしたちには欠けるものではなく、飢えに苦しむこともないことをわたしは見た。主の子らの何人かは食物の値段が上がっていくのを見て恐れ、苦難の時のために食物を買い、貯えようとするのを主はわたしに示された。それから必要になった時に彼らがその食物のところに行ってみると、虫がわいて、うようよと動き回っており、食用にはならないのをわたしは見た。(生ける神の印を受ける者 1849 年 1 月 31 日)

悩みの時に、家や土地はなんの役にも立たなくなる。そのとき、彼らは怒り狂った群衆から逃げなければならない。そしてそのときには、彼らの財産を現代の真理の働きを推進するために用いることはできないのである。……

もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして、彼らは財産を持っていることを許される。そして、悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前にあらわれるだろう。そして彼らは、それを処分しようとするのであるが、もう、それはできないことをわたしは見た。……もし彼らが喜んで聞き従うことを望むならば、神は必要に応じて、いつ、またどれだけ売るべきかを示してくださるのである。(初代文集 127-129)

サタンとの最後の大争闘において、神に忠実な者は、この世の一切の支持がたたれるのを見る。彼らは地上の権力に従うために神の律法を破ろうとしないので、売ることも買うことも禁じられる。ついには、彼らを殺せとの布告が出される。……しかし忠実な者には、「このような人は高い所に住み、堅い岩はそのとりでとなり、そのパンは与えられ、その水は絶えることがない」との約束が与えられている(イザヤ書 33:16)。この約束によって神の子らは生きるのである。(各時代の希望上巻 132, 133)

労働組合と企業合同

「だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。」(ヤコブ 5:7)

労働組合は世界が始まって以来なかったほどの悩みの時に、この地上にあらわれるサタンの代理の一つである。(田舎の生活 10)

すべての大都市では同盟や組合を作ることによって団体で結束しようとする。人が他の人を規制し、多くのことを強要する。これらの組合に参加するのを拒む者の生命は危険にさらされる。(原稿 1902 年 145)

神の民の働きとは、やがて盲目的な勢力で彼らに襲いかかってくる未来の出来事に対して備えることである。世界中に巨大な独占企業が組織されるであろう。人々はさまざまな組合に入って自分を拘束し、敵の囲いの中にまとまる。ある者たちは、しかるべき事業分野で得られるあらゆる手段を握るために合併するであろう。労働組合が結成され、これに加わることを拒む者は要注意人物となる。

.....

これらの労働組合は終わりの時代のしるしの一つである。人々は焼かれるために束になって集まっている。彼らは教会員であるかもしれないが、これらの労働組合に携わっている間は神の戒めを守るのは不可能である。なぜなら、これらの労働組合に加わるということ自体が十戒全体を無視することになるからである。

「あなたは、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主なるあなたの神を愛せよ。また、自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」……人々はこれらのみ言葉に従いながら、どうして貧しい階級の特権を奪い去り、ある条件を除いては、売り買いを禁じる者たちと結合することができるだろうか。(田舎の生活 7-9)

神の子であると称する者はどのような条件のもとにあっても、すでに構成されたか、あるいはこれから構成される労働組合に加わるべきではない。これは神が禁じておられることである。預言を研究する者たちは、わたしたちの前途に何かがあるかを見て、理解をすることができないのだろうか。(同上)

まもなく重大な問題に直面しなければならない。その時わたしたちは岩の裂け目に隠れたいと願っている。そこでわたしたちはイエスにお目にかかり、主の聖霊に活気づけられる。わたしたちに浪費する時間は一秒たりともないのである。(執筆者と編集者への勧告 113)

売買の禁止

「この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。」(黙示録 13:17)

わたしたちがどのような金額でも売ることができない時が来ようとしている。法令がまもなく、獣の刻印を持つ者以外はだれも売買することを禁止するのである。(教会への証 5 巻 152)

サタンとの最後の大争闘において、神に忠実な者は、この世の一切の支持がたたれるのを見る。彼らは地上の権力に従うために神の律法を破ろうとしないので、売ることも買うことも禁じられる。(各時代の希望上巻 132,133)

天とつながっていることを告白し、小羊の特徴を持っていると主張する宗教的権威が自分たちの行動によって、龍の精神を持ち、サタンに扇動され、支配されている者であることを示す。神の民が第七日目を聖なるものとし続けるために迫害の手を感じる時が近づいている。(教会への証 9 巻 229)

戒めを守る者たちが買うことも売ることができない時が近づいている。あなたの埋もれた才能を急いで掘り出さない。もし神があなたに金銭を委ねられたのであるなら、あなたに対する信頼に忠実であることを示さない。あなたが隠しているタラントを出して、両替人に送りなさい。そうすればキリストは来られる時に、ご自分のものを利子と共に受け取ることがおできになる。最後にこの働きが閉じる前に何千ものタラントが心からの喜びをもって祭壇の上に置かれるであろう。男も女も神の大いなる日に立つ備えを魂にさせる働きにあずかるということが祝福された特権であることに気づくであろう。そしていま数ドルを捧げるのと同じくらい喜んで、数百ドルを捧げるであろう。もしキリストの民であると公言する者の心にキリストの愛が燃えているなら、わたしたちは今日同じ精神が表されるのを見るであろう。魂の救いのために働くすべての働きの終わりがどれほど近いかに彼らが気づくなら、初代教会の会員たちが行ったように、進んで自分たちの持ち物を捧げるであろうに。彼らは世の人々が富を得るために働くのと同じくらい、熱心に神のみ事業を前進させるために働くであろうに。機転と技術が養われ、たくわえるためではなく、主の倉に注ぎ込むために、熱心で無私の働きが資力を得るためになされるであろうに。(ヒストリカルスケッチ 292)

郊外で暮らして、町で働く

「だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。』」(コリント第二 6:17)

神の戒めを守る民として、わたしたちは都会を出るべきである。エノクがしたように、わたしたちは都会で働かなければならないが、その中で暮らしてはならないのである。(田舎の生活 33)

わたしたちの施設は、可能な限り町から離れたところに設立されるべきである。……ご自分の民が絶え間ない騒動と混乱のある都市の中に定住するのは神のみ心ではない。子供たちはこのような状態から守られるべきである。なぜなら都市社会全体が慌しさと騒音によって墮落しているからである。主はご自分の民が田舎に移り、その地に定住して、果物や野菜を栽培し、子供たちが自然の中で、神のみわざに直接ふれることができることを望んでおられる。あなた方の家族を町から連れ出ささいと言うのが、わたしのメッセージである。

人々が聞こうと聞かないと、受け入れようと受け入れまいと、真理を語らなければならない。都市は誘惑に満ちている。わたしたちは、若者たちを、可能な限り、これらの汚染から遠ざけるような方法で、働きを計画すべきである。

都市は外から働きかけられるべきである。神の使命者は次のように述べている。「都市は警告されないのだろうか。否、神の民はその中に住みながらではなく、都市を訪問することによって、その地に何が訪れようとしているのかを警告するのである。」(同上 32,33)

不法が国に充満するとき、ソドムでロトの声が聞こえたように、いつの時代にも警告と教えを与える者の声が聞かれるべきである。けれども、もしロトが自分の家をこの邪悪な、汚れた町の中に建てていなかったなら、自分の家族を多くの悪から守ることができたはずである。ロトとその家族がソドムでなし得たすべてのことは、彼らが町からある程度離れた所に住んでいたとしてもなし得ることであった。エノクは神と共に歩んだ。しかし彼はソドムに住んだロトのように、あらゆる種類の暴力と邪悪さで汚れた都市のただ中には住まなかった。……

彼〔エノク〕は不道德な者と住居を共にしなかった。……彼はできる限り環境が汚れていない所に自分と家族を置いた。そして時々、自分の神がお与えになったメッセージを携えて、世に住む人々のところへ出かけて行き、……自分のメッセージを宣布した後で、いつも警告を受け入れた数名の者を自分の住んでいる場所へ連れて帰ったのであった。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 卷 1087, 1088)

肉体の苦しみを和らげる

「行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」
(マタイ 10:7,8)

危機の時がわたしたちの前にある。全世界が困惑と悩みに巻き込まれる。あらゆる種類の病気が人類家族に蔓延し、健康の法則に関して、現在蔓延しているような無知のために大きな苦しみを受け、救われるはずの生命が多数失われることになる。……

宗教的な攻撃により、わが国の自由が破壊されるとき、良心の自由のために立つ人々は不利な立場に置かれる。彼らは機会のある間に、自分自身のために病気やその原因、また予防と治療に関して知識を持つべきである。これを持つ者はどこにでも働き場がみつかる。苦しんでいる者、すなわち助けを必要としている人が数多くいる。わたしたちの信仰の仲間だけでなく、多くは真理を知らない人々の中にいるのである。(健康への勧告 504-506)

第三天使のメッセージに伴ってなされる医事伝道は、素晴らしい成果をもたらすのである。この医事伝道は、聖化し、一致させる働きとなるべきであり、教会の頭であられるお方が最初の弟子たちを送り出された働きに相当する働きである。

これらの弟子たちを呼び集められたときに、キリストは彼らに任務をお与えになった。……「行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ」
(マタ 10:7, 8, 16)。

この章を読んでその教えによってわたしたちが働きの準備をするのは良いことである。初期の弟子たちはキリストの任命のもとに、主の使命を帯びて、出かけて行った。キリストの霊が彼らの前に道を用意するのであった。弟子たちはこれほど素晴らしいメッセージを知らせ、祝福を分け与えるのだから、人々の家庭で歓迎されるはずだと感じるのであった。(同上 540, 541)

神は肉体の苦しみを和らげることを通じて心に近づくされる。真理の種が心にまかれると、神が水を注いで下さる。この種が生命のしるしを見せる前に、多くの忍耐が要求されるかもしれないが、ついにはこの種は芽を出し、永遠の命へと実を結ぶのである。

人は、神の力の日のためになす神の準備を理解するのが、どれほど遅いことか。
(医療伝道 246)

日曜休業令が発布される

「またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。」(マタイ 24:9)

日曜休業運動が、ますます大胆に、ますます断固として推進されるにつれて、戒めを守る人々に対して法令が発布される。彼らは、罰金や投獄をもって脅かされる。そして、ある者は有力な地位によって、また他の者は報賞や便宜の提供によって、信仰を放棄するよう勧誘される。しかし彼らは、断固として、「われわれが誤っていることを神の言葉によって示してほしい」と答えるのである。……。法廷に呼び出された者たちは、真理の力強い弁明をする。そして、それを聞く者の中には、神のすべての戒めを守るという立場をとるように導かれる者が出てくる。こうして、他の方法ではこれらの真理を知ることができない幾千という人々の前に、光がもたらされるのである。

神の言葉に良心的に従うことは、反逆と見なされる。サタンに目をくらまされた親は、信仰を持つ子供を残酷無情に扱う。主人や女主人は、戒めを守るしもべを虐げる。愛情は、冷ややかになる。子供たちは勘当されて、家から追い出される。パウロの言葉は、文字通り成就する。「キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」(テモテ第二 3:12)。真理の擁護者たちが、日曜安息日を尊ぶことを拒むとき、投獄される者もあれば、追放される者もあり、また奴隷として扱われる者もいる。……

この迫害の時に、主のしもべたちの信仰が試みられる。彼らは、神と神の言葉だけに頼って、忠実に警告を発してきた。神の霊が彼らの心を動かして、彼らに語らせたのである。……しかし、反対と非難のあらしが彼らに襲いかかるとき、ある者は、驚きのあまり、「もしわれわれの言葉の結果を予知していたら、われわれは黙っていたであろうに」と叫ぶであろう。彼らは困難に取り囲まれる。サタンは激しい誘惑をもって彼らを攻撃する。彼らが手がけた仕事は、とうてい彼らの能力では成し遂げられないように思われる。彼らは滅亡に脅かされる。彼らを活気づけた熱は去った。しかし彼らは引き返すことができない。その時彼らは、自分たちの全くの無力さを悟り、全能者のもとに逃れて力を求める。(各時代の
大争闘下巻 377-379)

プロテスタント教会が法王制と結びつく

「あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受ける。彼らは心(思い)をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。」(黙示録 17:12,13)

わたしたちが最後の危機に近づくとき、主の器たちの間に調和と一致が存在することが必要不可欠である。世界は嵐、争い、不一致に満たされる。しかし一つの頭、すなわち法王制の下に、人々は神の証人たちに反対することによって神に反対しようと、するために一体となる。(教会への証 7 巻 182)

この権力にその王国を与えるものは何であろうか。プロテスタント主義、すなわち、小羊の気質と精神を持っており、天につながっていると公言しつつ、龍のように語る力である。それは下からの力で動かされている。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 983)

「彼らは心(思い)をひとつにしている。」団結という全世界的結束、一大調和、サタンの勢力の同盟が起こるであろう。「そして自分たちの力と権威とを獣に与える」。このようにして、宗教上の自由、また良心の命じるところに従って神を礼拝する自由に反対する圧倒的な苛酷な力があらわされる。この力は、過去にローマカトリック教の宗教的礼典と儀式に従うことを拒む勇気をもっていた人々を迫害した法王制があらわしたものと同じである。

最後の時に行われる戦いで、神の民に敵対して、エホバの神の律法に対する忠誠を捨ててしまう墮落した勢力はすべて一つとなる。この戦いでは第四条の安息日が大きな論争点となる。なぜなら、安息日の戒めの中で、偉大なる律法賦与者が、ご自身を天地の創造主であると確認しておられるからである。(同上)

サタンは、靈魂不滅と日曜日の神聖化という二つの重大な誤謬を通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心靈術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す。合衆国の新教徒は、率先して、心靈術と手を結ぶために淵を越えて手を差し伸べる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである。(各時代の大大争闘下巻 350)

クリスチャンの二つの大きな分類

「その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、」(黙示録 13:3)

法王制に対する忠順の誓いをするにあたって米国はひとりではない。かつてローマの領土であると認められていた諸国でのローマの影響力はまだなくなっていない。(サイン・オブ・タイムズ 1910 年 2 月 15 日)

最後の闘いで安息日は全キリスト教国での特別な論争点となる。世俗の支配者と宗教界の指導者は日曜日遵守を強制するために手を結ぶ。そして、ゆるやかな手段が失敗すると、最も苛酷な法律が実施される。教会と国の法律が制定したことに對して、反対の立場を取る少数の者を大目に見るべきではないという要求が起こる。……昔のローマカトリック教と現代の背教したプロテスタント教会は、神の教えを尊重する人々に対して、同じような方針をとるのである。(預言の霊 4 巻 444,445)

いわゆるキリスト教界は、大いなる断固とした行動をとる舞台となる。権力を持った者は法王制の模範にならって、良心を支配する法律を立法化して実施する。バビロンは彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒をすべての国民に飲ませる。すべての国民が巻き込まれる。〔黙示録 18:3-7 引用〕。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 949)

〔黙示録 14 章〕の第三天使の警告……は中空を飛ぶ御使が大声で宣言していることとして、預言の中で表されている。そしてそれは世界の注目を引くのである。

論争点の中で、全キリスト教世界は二つの大きなグループ、すなわち、神の戒めとイエスの信仰を守る人々と、獣とその像とを拝み、その刻印を受ける者へとに分けられる。教会と国家とが力を合わせて、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に」「獣の刻印」を受けるように強制しても(黙示録 13:16)、神の民はそれを受けない。パトモスの預言者は、「獣とその像と刻印とその名の数字とにうち勝った人々が、神の堅琴を手にして、ガラスの海の上に立つて」モーセの歌と小羊の歌とを歌っているのを見るのである。(黙示録 15:2,3) (各時代の大争闘下巻 172)

多くの声による混乱

「わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。」(黙示録 18:4)

世界に対する警告の最後の働きの中で、二つのはっきりとした呼びかけが、諸教会に対してなされる。第二天使のメッセージは、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」である。そして第三天使のメッセージの大いなる叫びにおいて、天が次のように言う声が聞かれる、「わたしの民よ、彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害にまきこまれないようにせよ。彼女の罪は積みもって天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」。(レビュー・アンド・パース 1892 年 1 月 26 日)

神がイスラエルの子らをエジプトから呼び出されたとき、民は神の安息日を守ることができた。そのように神はご自分の民がバビロンから出てくるようにと呼び出される。そうすれば民は獣とその像とを拝むことはないからである。……

真理がすべての国民に証として宣言されて後に、悪の考えられる限り、あらゆる力が活動を始める。そして人々の心は、「見よ、ここにキリストがいる、あそこにいる。これは真理である。わたしは神からメッセージを受けている。神は大いなる光を授けて、わたしをつかわされた」との多くの声によって混乱するようになる。こうして目標となる目印を取り去り、わたしたちの信仰の柱を壊そうとする企みがなされる。偽りの安息日を高めて、神が祝福し、聖別された日に取って代わらせることにより、神ご自身を侮辱しようとますます徹底的な努力が払われる。この偽りの安息日は苛酷な法律によって強制される。……しかしサタンが偽りの不思議をもって働いている間に、黙示録で預言されている時は成就し、その栄光で地を明るくする力強い天使はバビロンの墮落を宣言し、神の民にバビロンから離れるようにと呼びかけている。(同上 12 月 13 日)

バビロンの罪はいつ天に達するだろうか。神の律法が立法によって最終的に無効にされる時である。その時、神の民の窮地は天と地の支配者であられるお方を指し示すための神の好機となる。サタンの力が下方からさまざまな要素を刺激しているとき、神はご自分の民に光と力を送られる。それによって真理のメッセージが全世界に宣べ伝えられるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1893 年 6 月 12 日)

研究 24

三重のメッセージ



もうひとりの御使のメッセージ

Part 3

1888 年とラオデキヤへのメッセージ

「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。」(黙示録 3:15)

「信仰を口で表明することと、心の中に真理を持っていることとは、全く別のことである。単に真理を知っているだけでは、十分ではない。真理の知識はもっていても、心の思いは依然として変わらないことが多い。心が改まり、清まらなければならないのである。」(キリストの実物教訓 71, 72)

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時が来…るためである。」(使徒行伝 3:19, 20)

「神の慰めあるいは力は、神が自分たちにお命じになった働き、すなわち肉と霊とのあらゆる汚れから自らを清め、神への畏れのうちに聖潔を完成することによって自らをそのために備える人々にのみ臨むのである。」(教会への証 1 巻 619)

生死にかかわる問題

「真の証人のメッセージは、わたしたちの民に恐るべき欺瞞が及んでいるという事実を表している。そのために、彼らの霊的なこん睡状態を打ち破り、決定的な行動へと目覚めさせるために、警告をもって彼らに臨む必要があるのでは

る。」(教会への証 3 巻 254)

「A・T・ジョーンズとE・J・ワゴナーによってわたしたちに与えられたメッセージは、神からラオデキヤ教会に向けられたメッセージである。そして、真理を信じると公言しながら、神が与えてくださる光線を他の人々に反射しない人々は、災いである。」(原稿 15 巻 92)

「このメッセージをあらゆる面から受け入れ、御摂理の開かれるところでもどこでもそれを民に向かって鳴り響かせなさい。信仰による義認やキリストの義は、滅びつつある世に提示されるべき主題である。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 964)

「ラオデキヤ教会へのメッセージは、特に今日の神の民に当てはまる。これはあまりにも世と似通ってきたために、何の相違も見られない自称クリスチャンたちに対するメッセージである。[14 ～ 18 節引用。]」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 959)

熱いとは何か、また冷たいとは何か

「わたしは、あなたがたの好意を知っており、そのために、あなたがたのことをマケドニアの人々に誇って、アカヤでは昨年以來、すでに準備をしているのだと言った。そして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させたのである。」(コリント第二 9:2)

「ラオデキヤ教会に対するメッセージは、わたしたちの状態にあてはまる。自分たちにはあらゆる真理があると考え、その神の言葉の知識を誇っているが、真理の聖化する力がその生活に感じられない人々の状態が、何と率直に描写されていることであろう。神の愛の熱心さが彼らの心に欠けている。しかし、神の民を世の光とするのは、まさにこの愛の熱心さなのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 961)

「兄弟姉妹方、わたしはあなたがたが『はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味する』ようにと切に願う。クリスチャンの愛のあたたかさと純潔さを維持するためには、キリストの恵みがたえず供給される必要がある。あなたは自分の『愛が、……いよいよ増し加わ』るように、また『なすべきことをわきま』え、『イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわす

に至るように』とあらゆる手段を用いてきたであろうか。」(教会への証 5 巻 103, 104)

「初めの誓いを無視したという非難を受けねばならないからである。」(テモテ 第一 5:12)

「教会の雰囲気はあまりにも冷淡で、その精神も同様であるため、男女は、天に由来する初期の敬神の模範を維持することも持続させることもできない。彼らの初めの愛の暖かさは凍りついてしまったので、彼らが聖霊のバプテスマによって水に覆われないかぎり、彼らの燭台は、彼らが悔い改めて初めのわざを行わなければその場所からとりのけられてしまうのである。教会の初めのわざは、信者たちが友人や親戚また知人たちを求めて出て行き、愛のあふれる心をもって、イエスが彼らにとってどのようなお方か、また彼らがイエスにとってどのような者であるかについて物語るときに見られたのであった。ああ、主が責任のある地位についている人々を目覚めさせてくださり、彼らが自分たちの利口さに頼って働きにとりかかることがないように。彼らの手によってなされる働きは、キリストの型と名に欠けているのである。」(牧師への証 167, 168)

なまぬるい大多数

「神のみ言葉は、それを実践しない人々にとっては、死んだ文字である。キリストはそのような者たちについて、『冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう』と仰せになる。このお方が彼らのためにみ父にとりなすことがおできにならないのである。もし彼らが自分たちは罪人であることを悟るならば、キリストは彼らのために嘆願することがおできになり、また主は彼らをご自分の聖霊によって目ざめさせて下さる。しかし、彼らはとがと罪のうちに死んでいる者たちよりもたちが悪い。彼らはみ言葉を聞か、それを少しも自分たちにあてはめず、その代わりに語られたみ言葉を自分の隣人にあてはめるのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 963)

「もし宗教を公言するなまぬるい者たちが、主のみ名を一言も口にしないならば、かえって主にとっては望ましいのである。彼らはイエスに忠実に従う者になりたいと望む人々にとって、絶えざる重荷である。彼らは未信者に対してはつまず

きの石であり、悪天使たちは彼らをめぐって勝ち誇り、彼らのゆがんだ行動のために神の使いたちをあざ笑う。このような者は、教会の内外のみ事業に対するのろいである。彼らは唇をもって神に近づくが、その心は神から遠く離れている。」(教会への証 1 巻 188)

「二心のクリスチャンは不信者よりもたちが悪い。なぜなら、彼らの欺瞞的な言葉やあいまいな立場は、多くの者を正道から迷い出させるからである。不信者は自分の色を明らかにする。なまぬるいクリスチャンは、両者を欺くのである。彼らは善良な世俗人でもなければ、善良なクリスチャンでもない。サタンは彼らを用いて、他の者にはできない働きをさせるのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 963)

「個々人が明示された神のみ旨に真っ向から反対して歩むことによって、このお方に罪を犯しているときに、自分には真理があり、自分は唯一の確かな土台の上にいて、自分たちが神のみ事業において何らかの働きに活動的に取り組んでいるため、神は自分たちの働きを是認しておられるとうぬぼれること以上に、人の心を欺くことのできる大きな惑わしが他にあるであろうか。」(牧師への証 451)

指摘された自己欺瞞

「この時代のための試金石となる聖なる厳粛な真理を神が委ねてこられた民は、自分たちの持ち場で眠っている。彼らは自分たちの行動によって次のように言っている。わたしたちには真理がある。わたしたちは、『自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もない』と。しかし、その一方で真の証人は次のように宣言しておられる。あなたは『みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』。

これらの言葉は何と忠実に現在の教会の状態を描写していることであろう。『みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』。」(教会への証 5 巻 101)

「自分たちの光を誇っていないながら、そのうちに歩まない者たちについて、キリストは『しかし、おまえたちに言うておく。さばきの日には、ツロとシドンの方がおまえたちよりも、耐えやすいであろう。ああ、カペナウムよ〔大いなる光をもっているセブンスデー・アドベンチストよ〕、おまえは〔特権という点において〕天にま

で上げられようとでもいうのか。黄泉にまで落されるであろう。おまえの中でなされた力あるわがが、もしソドムでなされたなら、その町は今日までも残っていたであろう。』(『ビュー・アンド・ヘルド 1893 年 8 月 1 日〔著者注釈挿入〕)

「はっきりとした光という特権に恵まれ、多くの働きがありながら、それによって益を受けてこなかった人々よりも、さばきの日にはソドムとゴモロの方が耐えやすいであろう。彼らは神があわれみのうちに喜んで与えようとしておられた偉大な救いをなおざりにしてきた。彼らは悪魔によってあまりにも盲目にさせられていたために、自分たちが豊かで神の恩恵のうちにいると思いつ込んでいたが、そのとき真の証人は彼らにみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であると宣言しておられたのである。」(教会への証 2 巻 488, 489)

病氣と治療法

「エルサレムは、はなはだしく罪を犯したので、汚れたものとなった。これを尊んだ者も皆その裸を見たので、これを卑しめる。これもまたみずから嘆き、顔をそむける。」(哀歌 1:8)

「われわれはみな汚れた人のようになり、われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。」(イザヤ 64:6)

「この裸と貧困の恥とは何であろうか。それは、神がすべての人々のために、ご自分の祝福を受けるための豊かな備えをしてこられたのに、自己の義を身にまとい、自らを神から引き離す恥のことである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 965)

「豊かになった、なんの不自由もないと感じている人々のみじめさや裸を構成しているものは、何であろうか。—それはキリストの義の欠乏である。彼自身の義のうちに、彼らは汚れた衣をまとっているながら、その状態で自分たちの身にキリストの義をまとっているとうぬぼれている状態だと表されている。これ以上の欺瞞があるであろうか。」(『ビュー・アンド・ヘルド 1894 年 8 月 7 日)

「イエスがわたしたちにご自分から買うようにと望んでおられる金は、火で精錬された金である。それは信仰と愛の金であり、それには何の汚れた不純物も混じっていない。白い衣はキリストの義、すなわちキリストだけがお与えになることのできる婚宴の衣である。目葉は、わたしたちの間で非常に必要とされている真の

靈的識別力である。なぜなら、靈のことは、靈によって識別されなければならないからである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 965)

否定的な反応

「〔E・J・〕ワゴナー兄弟と〔A・T・〕ジョーンズ兄弟による主のメッセージに対して表されたミネアポリスでの反対の大部分の根底には、先入観を捨てて真理を受け入れたくないという思いがある。サタンはこの反対をかきたてることによって、神がわたしたちの民に与えたいと切望しておられる聖霊の特別な力を、彼らから遮断することに大いに成功した。敵は使徒たちがペンテコステの日の後に真理を宣布したときのように、彼らが世に真理を伝える際に彼らのものとなったはずの能力を彼らが得ることができないように阻んだ。全地をその栄光で照らすべき光は拒否され、そしてわたしたち自身の兄弟の行動によって、大部分が世から遮られてきたのである。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 234, 235)

「わたしは世界総会に参集するわが兄弟たちに、ラオデキヤへ与えられるメッセージに注意を払うようにと切に請いたいのである。彼らの盲目の状態はいかばかりであろう。この主題はあなたがたの注意を呼ぶように何度も何度も繰り返されてきたが、自分自身の靈性に対するあなたがたの不満も、改革を実行するほど十分に深く痛みを伴うものではなかった。『自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』。自己欺瞞の罪がわたしたちの諸教会にある。多くの人々の宗教生活は偽りである。」(原稿 16 巻 108)

前向きな反応

「わたしはラオデキヤへの証が、現代の神の民にあてはまることを示された。……それは神の民を目覚めさせ、自分たちの背信を発見させ、そして熱心な悔い改めへと導くようにと意図されたものである。それは彼らがイエスのご臨在の恩寵を受け、第三天使の大いなる叫びにふさわしい者とされることができたためである。」(教会への証 1 巻 186)

「これが、使徒ペテロが待望した『慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)〕の時』である。彼は次のように言った。『だから、自分の罪を〔調査審判の間に〕ぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、……イエスを、神がつかわして下さるためである』(使徒行伝 3:19, 20)。(各時代の斗争闘 1888 年版英文 611 (日本文下巻 382 参照)〔著者注釈挿入〕)

「個々人は、彼らが自分たちの偶像を犠牲にし、真の証人の勧告に注意を払うかどうかを調べるために、一定期間テストされ、試される。もしだれでも真理に従うことによって純潔にされることなく、自分たちの利己心や自分たちの誇りまた悪感情に勝利しないならば、神の御使たちは、『彼らは偶像に結びつらなつた。そのなすにまかせよ』との宣告をなす。そして、自分たちの罪深い性質を征服しないでそのままにしている人々を悪天使たちの支配に任せて立ち去り、自分たちの働きを続けるのである。どのような代価を支払うことになっても、すべての点に達し、すべてのテストに耐えて勝利する人々は、真の証人の勧告に注意を払ってきた。そして彼らは後の雨を受けて、それにより昇天にふさわしい者とされるのである。」(教会への証 1 巻 187)

悔い改めと告白

「まじめな悔い改めと改革が伴わない告白は、神に受け入れられることはできない。はっきりとした変化が生活にあらわれ、神の嫌われるすべてのものを捨てねばならない。ほんとうに罪を嘆いた結果はそうなるのである。」(キリストへの道 46)

「人が聖霊に満たされるとき、きびしくテストされ試されればされるほど、ますますはっきりと彼がキリストの代表者であることを実証するようになる。魂のうちに宿る平安が表情に見られる。言葉と行動は救い主の愛を表現する。最高位のために争うこともない。自己は捨てられるのである。イエスのみ名が語られ、行われるすべてのことに記されている。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1117)

「リバイバルと改革が、聖霊の働きの下で、行われなければならない。リバイバルと改革はまったく別のものである。リバイバルは、霊的生命が新たにされる

こと、思いと心の力がよみがえらされること、霊的な死からの復活を意味している。改革は、再組織、すなわち考えや理論、習慣や慣習に起こる変化を意味している。改革はみ霊のリバイバルとつながっていないかぎり、良い義の実を結ぶことはない。リバイバルと改革はその定められた働きをなすべきであり、この働きをする際にそれらは混じりあわなければならないのである。」(レ・ビュー・アンド・ワールド 1902 年 2 月 25 日)

後の雨のための準備

「主は言われる、今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。あなたがたは衣服ではなく、心を裂け。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである。」(ヨエル 2:12, 13)

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。」(各時代の大争闘下巻 190)

「わたしたちのうち一人として、自分たちの品性にひとつのしみや汚れがある間は、決して神の印を受けることはない。自分たちの品性の欠点を癒し、魂の宮をすべての汚れから清めるかは、わたしたち次第である。そのとき、ペンテコステの日に弟子たちに前の雨が降ったように、わたしたちに後の雨が降るのである。」(教会への証 5 巻 214)

子どもたちは、何だろう?と考えました。彼らは、お父さんが確かにこれらのことから教えたいと思っている実物教訓(じつぶつきょうくん: 目に見えるものから、目に見えないものを学ぶ教え)があることはわかっていました。みんな聖書(せいしょ)の中で、水が聖霊(せいれい)のすばらしい象徴(しょうちょう)として用いられていることを知っていました。……でも、ジュースはどうでしょう?お父さんは、もしかしたら、御霊(みたま)の実(み)のことを話そうとしているのでしょうか?お父さんは何を考えているのでしょうか?

ついに、ジョーイがグラスを数えました。1、2、3、4、5、6 は水が入っていて、7 つめにジュースが入っていました。

「わかった、お父さん!」彼はよろこんで叫びました。あたかも電球(でんきゅう)が彼の思いの中でぱっともったかのようにでした。「7 番目は安息日(あんそくにち)だ!!!」

「まったくそのとおりだよ、息子よ」、お父さんはにっこり笑いました。「一日一日は、神さまからの偉大(いだい)なたまものだよ、ちょうどわたしたちが飲んでいる水のようにね。だけど、覚えてほしい、『神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。神はその第七日を祝福(しゅくふく)して、これを聖別(せいべつ)された。神がこの日に、そのすべての創造(そうぞう)のわざを終って休まれたからである』(創世記 2:2,3)。

「そう、だからね、神さまはとくべつな祝福を、第七日目に注いでくださったんだ。そしてわたしたちはそれを、週のうちでもっともうれしく、もっとも喜ばしい日として楽しむべきだよ。その日は、仕事を休む日だ一家事から休む日だよ。みんな安息日には、他の日よりもっと一緒に(いっしょ)にすごすんだ。みんなの天のお父さまともそうだよ。だから、このお方の日を楽しもう!このお方はわたしたちを愛してくださるから、この日に特別な祝福を入れてくださったんだ」。

この説明(せつめい)が、家族みんなで神様のすばらしい計画(けいかく)を神様に感謝(かんしゃ)する機会(きかい)となりました。そして、自分のオレンジジュースを飲みながら、安息日に自分たちのためにとっておいてくださっている祝福を特別に喜んだのでした。

麻婆豆腐&茄子

【材料】

ナス	3本
木綿豆腐	1パック
タマネギ	中一個
人参	小1本
ニラ	半束
しょうが(みじん切り)	大さじ2杯
濃い野菜だし	半カップ
味噌	大さじ1
塩	少々
しょうゆ	(好みで)
オリゴ糖	(好みで)
ごま油	大さじ1
片栗粉	大さじ1

【作り方】

1. ナスは3センチの長さで4等分に切り、水につけておく。豆腐は水切りをし、2センチ位のサイコロに切る。タマネギ、人参、にらは荒みじん切り。
2. フライパンに野菜出しを入れ、強火にかけて、しょうが、ナス、タマネギ、人参、ニラ、豆腐の順に入れる。
3. ナスに火が通るとオリゴ糖、味噌、塩、しょうゆを入れ、好みの味にする。
4. 片栗粉を濃いだし(分量外)で溶いてまわしかけ、火が通れば火を止めてごま油を混ぜる。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



c

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



祝福された一つ



あかるく晴れた朝でした。ブレイク一家は、朝食の用意ができました。「子どもたち、おいで」とお父さんが言いました。「見せたいものがあるんだ」。

子どもたちは、お父さんがいくつかのガラスのコップを持ってきて、台所のテーブルの上におくのを熱心に見ていました。

「さあ、コップに入れていこう」と言いながら、お父さんは、大きな水さしから一つ一つのコップへ水を注ぎはじめました。とつぜん、ちょうどさいごのグラスに入れようとしたところで、お父さんはやめました。

子どもたちはみんな、次に何がおこるんだろうとふしぎに思いました。お母さんでさえ、わかりませんでした。……

すると、お父さんは冷蔵庫のところへ行き、新鮮（しんせん）なしぼりたてのオレンジジュースが入ったビンを取りだして、さいごのグラスをジュースで満たしました。うーーーーーん、あまくておいしいそうなオレンジの香りがあたり一面にただよって、子どもたちはにっこりしました。

「さあ、子どもたち」お父さんが言いました。「みんなおながすいているね。どの飲みものが飲みたい？」

三人の子どもたちはみんなしずかにお互いの顔を見ました。みんなすでに朝の水は飲んでいましたが、オレンジジュースのコップは一つしかありません。みんな、自分のことばかり考えるべきではないことを知っていました。しかし、みんなが同じことを考えていることはあきらかでしたーそう、どの子ももちろん、ジュースが飲みたかったのです。

お父さんはにっこりしました。「心配しなくていいよ、子どもたち。冷蔵庫にはまだジュースがあるからね、そう、たくさんあるから、みんな飲むことができるよ。だけど、これらのコップから何を思い出すかな？」。